

# 岡山県総合文化センターニュース

## 県内美術館所蔵作品紹介

## 勝央町郷土美術館

### 『棲（スミカ）』 水野恭子 作

太陽の光線が届かぬほど大木が生い茂りうっそうとした森深く、息を潜め静かに存在する生き物たち。茂みの奥、梢の先、うとになった木の中に、目を凝らし耳をすますとそれらは確実に息づいている。

この作品には、よく見ると画面の中に“つぐみ”など多くの森に棲む生き物たちが描かれている。それは、いわゆる技法としての騙し絵や、隠し絵などではなく、この作家が描こうとしているテーマによるもので、表面的な森を切り取る

のではなく、そこに内包された生命をも表現化したものであり、作品に重厚な趣を与えている。

また、この作品は、この時期さかんに制作された武蔵野原野を主題とした作品の一つであり、耳をすますと、あたかも木々のざわめきが聞こえてくるようで、見る者を作品の森深くいざなう。

画家は、自然を主題にして森の木々や生き物たちを丹念に描き続けており、近作では桜の大木をモチーフに意欲的な創作活動を行っている。〔1983年制作〕



### 勝央町郷土美術館

美術館の本館である建物は、明治45年4月勝田郡役所として建築され、その後地方事務所を経て勝央町役場として使用されていたが、昭和58年、役場の新築にともなう跡地利用小委員会の提言により美術館としてオープンした。

以来、郷土出身の近代洋画家の作品を中心に収集・展示を行っている。

交通 J R姫新線勝間田駅より徒歩7分 中国高速  
バス中国勝間田駅より徒歩5分 中国自動車道・美作インターより約10分



〒709-4316 勝田郡勝央町勝間田635  
TEL(0868)38-2581

## 岡山県関係資料の収集について



当センターニュース420号で紹介しましたとおり、岡山県総合文化センターには郷土資料室があります。郷土資料室では岡山県に関する様々な資料を収集・整備・保存して、県民の皆様に提供しており、ほかの図書館にはない、文化センターの大きな特長となっています。岡山県に関することをお調べの際にはぜひご活用下さい。また、岡山県にゆかりのある方や在住の方の句集・詩集などの文学作品集、美術の作品

集なども積極的に収集しており、これらは一般室に置いてあります。

さて、現在この郷土資料室には約4万点の資料があります。一般の出版社が発行する資料のほかに、流通経路に乗りにくい行政資料（県内の行政機関の発行する資料）、県内の教育機関・団体・企業の発行する資料、自費出版の資料など、様々な出版形態のものがあります。内容としては地域の歴史や地理、自分史、各種統計書、調査報告書、要覧、記念誌、学校史、紀要、雑誌類、観光パンフレットや市町村の広報・例規集、公民館講座の成果の文集など、ありとあらゆるものを収集しています。しかし、それらの資料は出版情報もつかみにくいのが実状です。新聞や雑誌を利用して情報収集に努めていますが、限られた情報しか得ることができません。

文化センターは岡山県に関する資料の網羅的収集を目指しています。そこで、資料を出版された時はぜひ文化センターに御寄贈いただければと思います。岡山県に関する資料のうち、内容が岡山県に関するものは1点につき3冊収集をしています。1冊は閲覧用（常に図書館においてあり、来館者はいつでもその資料を見ることができます）、1冊は貸出用、1冊は保存用という内訳です。誠に勝手ですが、そのような資料については3冊、また、岡山にゆかりのある作者の文学作品、美術作品集など、一般室に置くものは2冊御寄贈いただければと思います。雑誌につきましては各号1部ずついただければ幸いです。

県民の皆様の調査・研究をサポートし、そして、より良いサービスを提供するためには不断の資料収集が欠かせません。資料を発行された際には、ぜひ文化センターまで御一報ください。

また、そのような資料を一括して処分される際にもお知らせください。こちらから受け取りにうかがいたいと思います。よろしくお願いいたします。





## おがやま人物往来 ⑤6

うら がみぎょくどう  
浦上玉堂



浦上玉堂 浦上春琴筆 林原美術館蔵

玉堂が士籍を捨て、岡山を去ったのは50歳の寛政6年(1894)のことであった。

『池田家履歴略記』(斎藤一興編)は、鴨方藩士浦上兵右衛門が紀一郎(のち春琴)と紀次郎(のち秋琴)の2子連れて丹後の城崎温泉から出奔する旨の書付を送ってきたこと、その書付が4月21日に到来したことを載せる。『兼葭堂日記』によると、同年4月3日、6日の両日玉堂が2子をつれて木村兼葭堂を訪ねている。

浦上玉堂はわが国画壇の中であって、独自の心象風景を描いた孤高の画家として高く評価される。玉堂が画を描くようになったのは40歳ごろからで、それは興にまかせて胸中の山水を我流に描いたものといわれるが、そこには他の誰にも表現しえない芸術性がたたえられていると指摘されている。

浦上玉堂は延享2年(1745)岡山城下石関町天神山にあった岡山藩の支藩鴨方藩邸で生れた。通称兵右衛門、35歳の時、明の顧元昭の七

弦琴「玉堂清韻」を入手したことから玉堂琴士と号するようになった。

浦上氏は玉堂の父宗純の伯母常が鴨方藩の藩祖池田政言の側室となって2代藩主政倚を生んだことから代々鴨方藩に仕えたもので、父の死で玉堂が家督を継いだのは7歳の時であった。城下三番町に屋敷を拝領し、ここに住んだ。16歳の時、1歳年上の4代藩主政香の御側詰となり、その後も藩主の側近として重用されたが、玉堂24歳の明和5年(1768)政香が病没。玉堂は若い主君を悼んで「止仁録」を著している。

玉堂は若いころから学問に励み、詩文に親しみ、琴を嗜んだ。江戸在勤中には玉田黙翁から儒学を、多紀藍溪に琴を学んでいる。

玉堂はなぜ武士を捨て、岡山を去ったのか。玉堂とも親交のあった一興は『履歴略記』のなかで、「性質隠逸を好み、常に書画を遊び、琴を弾じ詩を賦し、雅客を迎へ世俗のましらひを謝し、只好事にのみ耽りければ勤仕も心にまかせずなりゆき」とするが、出奔前、玉堂は讃岐の梶原監築への手紙のなかで「岡山八一向学問流行不仕候」とか「岡山八日々殺風景」などと記しており、これが岡山を去る理由の一つであったことは間違いなからう。また、2年前には妻安を亡くしており、玉堂は50歳を機に積極的に自らの文雅の道を志したものと思われる。

出奔した玉堂は絵を描き、琴を弾き、友人や好事家の所を転々とした。会津・熊本・大坂・水戸・高山・金沢・堺などに足跡が残る。文化10年(1813)ごろから京都の春琴の家に同居するようになったが、文政20年(1820)没し、本能寺に葬られた。

玉堂については画集、伝記とも出版物が多い。

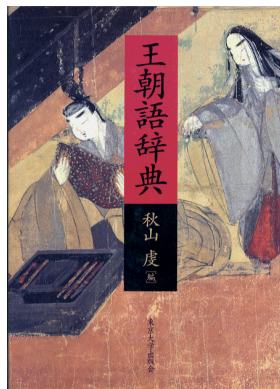
## 当館の参考図書 ①10

### 王朝語辞典

(秋山虔編 東京大学出版会 2000)

王朝文学、すなわち平安時代の貴族を中心とした文学には、『源氏物語』や『枕草子』、『古今和歌集』など、現代でも絶大な人気を誇る作品が多い。これらの作品には現代語訳もたくさん出ており、ファン層も幅広いものとなっている。

しかし王朝文学に接するに際し、平安時代当時に使われていた言葉についての知識をもった上で作品にふれる方が、より理解が深まることはいうまでもない。



本書は、王朝文学に頻出する500の項目について各1ページを使って解説している。

たとえば1ページ目に出てくる「愛」という言葉を見てみると、現代では肯定的意味で用いられることが多いのに対し、平安時代には否定的意味で用いられていたこと等を『今昔物語集』での用例を使いながらわかりやすく解説している。

ちなみに編者の東京大学名誉教授、秋山虔氏は岡山県津山市出身である。

## 新着郷土資料紹介

**名木百選 東美作路** 岡山県勝英地方振興局編、発行 2000 118\$-

**古備前大事典** 吉村佳峰編著 吉備人出版発行 1999 660\$-

**岡山県万能地図** 山陽新聞出版社編、発行 2000 188\$-

**醍醐桜 図書館エッセー通信** 堀保則著、発行 2000 264\$-

**極楽山清眼寺** 極楽山清眼寺発行 2000 102\$-

**豊地区覚え書** 池上淳之著、発行 2000 261\$-

**岡山県農協共済五十周年史** 岡山県共済農業協同組合連合会編、発行 2000 920\$-

**吉備真備とその伝承 天平のマルチ人間** 高見茂著 山陽新聞社発行 2000 278\$-

**集芳 創立四十五年記念誌** 岡山県習字教育

研究会編、発行 2000 26\$-

**倉敷市由加山系全域の自然** 倉敷の自然を守る会発行 2000 204\$-

**岡山のふるさと市 岡山文庫204** 倉敷ぶんか倶楽部編 日本文教出版発行 2000 157\$-

**備前焼の魅力探究 古陶から現代備前まで** ふたばらいふ新書030 黒田草臣著 双葉社発行 2000 325\$-

**津山城 資料編** 津山市教育委員会編、発行 2000 258\$-

**備前の絵馬 備前市立歴史民俗資料館第20回企画展** 備前市歴史民俗資料館、備前市教育委員会編 備前市歴史民俗資料館発行 2000 36\$-

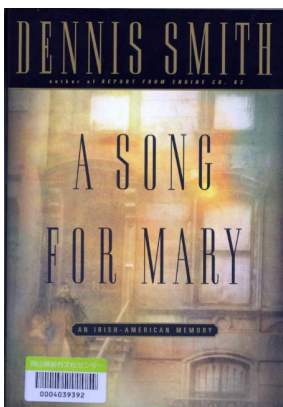
**玉野の地名分類の考察** 大原昭平著、発行 2000 23\$-

**ふるさと歴史ウォークガイド 備中** 加原耕作編集協力 岡山県明るい長寿社会財団発行 2000 21\$-

## 外国語資料紹介

人

**A song for Mary : An Irish American memory** (by Dennis Smith / Warner Books / 1999)



貧しい生活の中で非行にはしりながらも、カトリック教の信仰と母メアリーの教えに支えられて消防士の仕事と巡り合った、アイルランド系アメリカ人青年の感動的な実話である。1972年に消防士としての経験を描いたノ

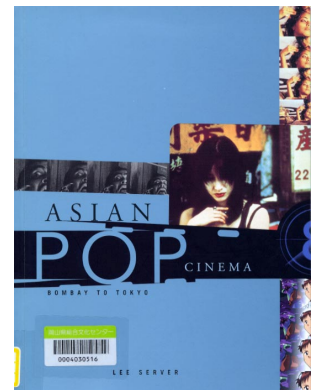
ンフィクション“Report from engine co.82”がベストセラーとなったデニス・スミスが、幼少の頃の思い出を綴っている。

映画

**Asian pop cinema : Bombay to Tokyo** (by Lee Server / Chronicle Books / 1999)

世界で注目を集めているアジアの映画についてのガイドブック。日本・韓国・中国・台湾・

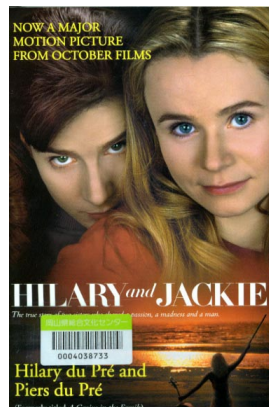
香港・フィリピン・インド・東南アジアなどの著名な映画について、たくさんの写真を交えながら解説されている。特に日本映画について詳しく記述されており、黒澤明や北野武についてもかなりのページが割かれている。



音楽

**Hilary and Jackie** (by Hilary du Pré / Ballantine Books / 1998)

16才でプロデビューし、イギリス



の音楽界に一大センセーションを巻き起こしながらも、不治の病でステージをおりた天才チェリスト、ジャクリーヌ・デュプレ。その短い生涯を、姉のヒラリーが綴った伝記である。映画化もされ、話題を呼んだ作品である。



# 随想

## 食文化とナショナリズム

岡山大学教授 谷 聖 美



最近、トマトにしるキュウリにしる、全般に味が薄くなったという声をよく聞く。かつては各地域で栽培されていた独特の品種がすたれて、全国どこでも同じ品種、同じ味の野菜や果物が幅を利かせるようになってしまったという嘆きも聞く。そして、このような状況は日本人の食文化が衰退しつつあることの表れだというような批判も目に付く。

確かに、苦みといい酸味といい、子供の時に食べた野菜の方が味が濃かったような気がする。いろんな品種名が今でも残ってはいるので、やはりトマトやキュウリのようにどこでも見かける野菜にも、ふるさとの味というものはあったのであろう。だから、野菜を使った料理の味が、今ではかなり変わってきているということは十分考えられる。

ただ、私はこのような状況が嘆かわしいことだ、反省すべきことだとは必ずしも思わない。それは、一つには、トマトならトマトの味は画一化されてきているかもしれないが、トマトを使った料理法やドレッシングの種類が「昔」とは比べものにならないくらい多様なおいしさを与えてくれるようになったからである。その意味で、国際化の進行とともにさまざまな食文化が手軽に味わえるようになってきたことは喜ばしい限りである。

第二に、地元取れたて、産地直送の野菜や果物を手に入れることができれば、今でも、新鮮なおいしさだけでなく、同じ品種であっても土壌や水の違いが生み出す微妙な味わいを楽しむことはできるからである。大農法による大量画一生産というイメージが強いアメリカでも、個人経営の農家が庭先や道ばたで売っている自家製のトウモロコシやトマト、チェリーなど、さ

まざまな野菜果物を買って食べてみれば驚くほどおいしい。私が住んでいた中西部では、どの町にもファーマーズマーケット（日本でいえば屋根付きの朝市のようなもの）があって、近在の農家や牧場が取れたて絞りたての野菜やくだもの、牛乳、たまご、あるいはその家独自の方法でつくった食材を売っている。日本でもこんな風にして野菜や果物などを手軽に手に入れることができれば、「昔」はよかったなどと嘆く必要はないのである。

最後に、私はその「昔」というのをあまり信じない。そもそも、トマトなんて日本列島の歴史のなかでは新参者にすぎないではないか。縄文の「昔」から連綿と食べ続けられてきたものなどほとんどない。食文化に限らず、文化というものは時代とともに変わっていくものなのだ。私たちが「日本的」と思っているものでも、ほとんどの場合その起源は意外に最近だったり、あるいは外の世界の影響で広まったものだ。これぞ日本的と思われている神前結婚式だって、明治時代まではなかったものであり、そこにはキリスト教式結婚式の影響が感じられる。

食に関しても同様である。関ヶ原の合戦の頃にはにぎり寿司も祭り寿司もなかった。米だって、この列島に初めて導入された頃のもの赤米で、今ではほとんど見られない。いや、米自体、鎌倉の頃まではそれほど人々の胃袋を満たすものではなかった。五穀豊穡というではないか。米が五穀から抜け出て主食になったのすら比較的「最近」である。とんかつは西洋料理の影響を受けた和食である。料理とは優れて創造的な活動だ。過去や固有性にとらわれることなく、柔軟な発想と飽くなき探求心で私たちの食文化をいっそう豊かなものにしていきたいものである。ナショナリズムはおいしさと栄養の敵なのだ。

6月から1ヶ月間、岡山県総合文化センター図書館で研修をさせていただきました。久米南町に来年完成する図書館を地域の方々に愛されるべくものにするため、県立図書館の方々に基礎の基礎から教えていただきました。研修では毎日新しいことを教えていただき、司書としての仕事の多さに悪戦苦闘でしたが、粒々辛苦してゆく所存です。始めの一步末の千里となるよう精進したいと考えております。

研修を終えて

久米南町中央公民館図書室 井上 寿美

文化センター友の会  
会員になりませんか

会費 年額 3,000円  
(特別な行事の場合には参加費が必要です。)  
期間 平成12年6月1日～平成13年5月31日  
特典

美術鑑賞旅行、スケッチ・写真撮影旅行、友の会作品展等への参加。  
文化センターニュースを隔月送付。  
文化センター主催の展覧会、土曜劇場の無料優待。  
文化センター展示室での各種展覧会の割引。

連絡先 岡山市天神町8-54  
岡山県総合文化センター総務課  
☎(086)224-1286

募集  
してま

平成12年

# 8・9月の催物案内

岡山県総合文化センター

ギャラリー（開場時間 9：00～17：00）

期間 (週)	第 1 展 示 室		第 2 展 示 室	
	大 室	小 室	大 室	小 室
8 / 1 ~ 8 / 6	<b>第42回東中国自由美術展</b> 絵画約60点, 彫塑 6点 自由美術協会岡山支部 入場無料		<b>第32回新美展</b> 洋画17点, 水彩画32点, 日本画4点, 写真2点 新生美術会岡山支部 入場無料	
8 / 8 ~ 8 / 13	<b>第31回桂友会書展</b> 書創作(漢字, かな, 近代詩文, 少字数) 約250点 桂友会 入場無料		<b>さわらび会第7回墨彩画展</b> 墨彩画(額装)61点, 他に小品61点 さわらび会 入場無料	
8 / 15 ~ 8 / 20	<b>第31回玉龍会展</b> 書(伝統書・現代書) 50点, 絵 8点, 15点, 陶芸10点 玉龍会 入場無料		<b>第12回水墨画萌苑会展</b> 水墨画約150点 水墨画萌苑会 入場無料	
8 / 22 ~ 8 / 27	<b>全日本写真連盟岡山県本部展・ 第56回朝日写真展(巡回展)</b> 写真250点 全日本写真連盟岡山県本部 入場無料		<b>白青会展</b> 油絵, 日本画, デッサン 白青会 入場無料	
8 / 29 ~ 9 / 5	<b>第51回岡山県美術展覧会 準備</b>			
9 / 6 ~ 9 / 17	<b>第51回岡山県美術展覧会( 期 9 / 6 ~ 9 / 10, 期 9 / 13 ~ 9 / 17)</b> 書道2700点 (株)山陽新聞社 [ I・II期 ] 一般700円, 学生300円, 老人無料 [ II期のみ ] 一般500円, 学生200円, 老人無料			
9 / 19 ~ 9 / 24	<b>ライオンズクラブ合同美術展</b> 洋画40点, 日本画20点, 書道20点, 工芸40点, 彫刻10点, 版画5点 市内ライオンズクラブ 入場無料		<b>第12回創彩展</b> 油彩33点, 水彩 3点 創彩会 入場無料	
9 / 26 ~ 10 / 1	<b>第25回岡山県教職員美術展</b> 日本画130点, 洋画125点, 版画20点, 彫刻10点, 写真60点, 書道105点 (財)岡山県教職員互助組合 入場無料		<b>第19回操風展</b> 油絵70点 操風会 入場無料	
	<b>第14回竜墨書道会展</b> 書60点 竜墨書道会 入場無料			

ホール(固定席282席)

日(曜)	催 物	時 間	料 金	主 催 者
8 / 4(金)	「少年の主張」岡山県大会	9：30～15：30	無 料	岡山県青少年育成県民会議
8 / 5(土)	ピ ア ノ 発 表 会	13：30～16：30	無 料	野 ば ら の 会
8 / 6(日)	山田利子ピアノ教室発表会	10：00～11：30	無 料	山田利子ピアノ教室
8 / 12(土)	演劇公演「ONとOFFのセレナーデ」	14：00～16：00	無 料	岡山商大・就実女子大合同演劇部
8 / 20(日)	ピ ア ノ 発 表 会	9：30～16：30	無 料	石 井 ピ ア ノ 会
8 / 26(土) 27(日)	第311回文化センター土曜劇場 (岡山大学演劇部公演「キル」)	14：00～ 18：00～ 12：00～	前：500円 当：400円 会員無料	岡山県総合文化センター
9 / 1(金)	ホ ー ル 使 用 抽 選 会 (対象期間：H13年1月～5月)	9：00～		岡山県総合文化センター 総 務 課
9 / 9(土) 10(日)	第312回文化センター土曜劇場 (岡山ろう者劇団「夢二」& びっくり座ユニークシアター) 筒井啓介:「何にでもなれる時間」	18：00～ 13：00～	前大 1200円 小 500円 当大 1500円 小 700円 会員無料	岡山県総合文化センター
9 / 16(土)	フ ォ ー ク ソ ン グ 発 表 会	未定(午後)	未 定	白 い カ ラ ス
9 / 23(土)	ギ タ ー 発 表 会	13：00～15：00	無 料	吉 岡 ギ タ ー 教 室
9 / 24(日)	第27回(財)岡山県吟剣詩舞道寿大会	9：30～16：30	無 料	(財)岡山県吟剣詩舞道総連盟
9 / 29(金) 30(日)	第313回文化センター土曜劇場 (岡山県高校演劇協議会 参加17高校公演)	13：00～18：00 9：00～19：00 9：00～17：00 (各校40分を予定)	無 料	岡山県総合文化センター

抽選会は, 9 / 1(1～5月: 今回限り)・12 / 1(6～8月)・3 / 1(9～11月)・6 / 1(12～2月)です。

ただし, 使用目的は, ピアノ発表会・バンド演奏会・演劇公演等, 営利目的以外の催しに限ります。

会員.....文化センター友の会及び文化振興会会員

平成12年度岡山県総合文化センター友の会会員を募集中。(詳細は文化センター総務課まで)

催物案内と文化センターニュースはホームページでもご覧になれます。